

住みやすさと安心が共存する「いま」の五霞町

——最近では、菊地さんにも協力いただき、原宿台や川妻地区に子育て支援住宅が完成しました。今の五霞町の魅力をどう捉えていますか？

菊地 五霞町は「都会に近い田舎」としてのポテンシャルが非常に高いです。都心から50km圏内という好立地でありながら、豊かな自然に囲まれています。

携わらせていただいた子育て支援住宅でも、町外からの転入者が多いです。特に子育て世代からの注目が高まっていると感じます。

町長 4月は3月と比べて、人口が29名増加し、大変嬉しく感じています。子育て支援の充実や、教育環境の整備など、ソフト・ハード両面での施策が実を結びつつあります。

篠崎 町全体が子どもを見守る空気感がありますね。消防車で走っていると、小学生が「お疲れさまですー」と敬礼してくれたりします。30年前から変わらない「人の優しさ」が、新しい世代にもしっかりと受け継がれているのを感じます。職場の仲間も五霞町はいい町だと言ってくれます。

五霞町のすきなところ

パトロール中に声をかけてくれる「人の優しさ」



篠崎 凌祐さん

茨城西南広域消防本部
古河消防署 五霞分署消防副士長

村から町になったときに30歳だった菊地さんと今年30歳になる篠崎さん。世代は違いますが五霞町への愛情は共通でした。

五霞町のすきなところ

町外から来てくれた人を地域の方が受け入れてくれる「人の温かさ」



菊地 和幸さん

株式会社五霞建設 代表取締役社長
株式会社キラリごかタウン 代表取締役

また、消防の現場から見ても、大きな火災や災害が少ない「安心して暮らせる町」なんです。川に囲まれながらも水害の心配が少ない。近隣自治体と比較しても火災や救急の要請も落ち着いています。町民のみなさんに適正な利用を心がけていただいているおかげです。

次の30年に向けて

わたしたちが創る未来
——これからの30年、五霞町をどのような町にしていきたいですか？

篠崎 豊かな自然は守りながら、人口が増えて活気のある町になってほしいです。若い世代がもっと町に誇りを持ち、消防団などの地域活動にも積極的に参加してくれるような町にしていきたいです。

また、これまで以上に防災に力を入れて、災害に強い安心な五霞町を次世代に繋いでいきたいですね。

菊地 私は「人の温かさ」という町の宝を大切にしたいです。新しく町に来られた方からも、「近所の人々が優しく声をかけてくれた」という話をよく聞きます。移住者が自然に地域に溶け込めるのは、人々の懐の深さがあるからこそです。外から来た人を温かく迎え入れる「お

もてなしの心」こそ、私たちが一番大切にしたい誇りですね。

また、PRに力を入れて五霞町の良さをもっと多くの人に知ってもらいたいです。人が集まれば活気がでます。こどもたちや地域の人が気軽に集える環境をつくって、世代を超えた地域のつながりを大切にしていきたいです。

町長 人口が減少する時代だからこそ、一人ひとりが輝ける町でありたいです。居場所があり、友だちがいて、元気に過ごせる。そんな「持続可能な社会」を町民のみなさんと共に作っていきたくと考えています。五霞町には、まだ見ぬポテンシャルがたくさんあります。次の30年も、共に歩んでいきましょう。

